

世界資本主義の一時の安定の過程は世界無産階級の犠牲の増大を意味するものがある。必然的に無産階級運動の尖鋭化を促進するものがある。

斯る世界資本主義の情勢の推維を前にして国際的無産階級の主流は確然たる二大階級に分裂してゐる。即ち此の安定に肯定的態度を示す第三インターナショナルと、否定的態度を示す第二インターナショナルと、二つである。然して各国の無産階級運動は、此の国際的主流と各国内の階級に照應して、諸種の特徴を呈するを見る。社会主義的運動の中心となるべき第三インターナショナルの諸党、世界資本主義の生産より派落し行く諸国に於ける小規模運動の右翼、安定の過程にある合衆國に於ける労働組合主義の全盛、独逸其他の中欧諸國に於ける現存の條條、支那印度等に於ける共産主義の民族運動の勃興、日本に於ける統一と前進とを主張する現存の現象は即ち之である。

即ち世界の無産階級運動の一般的には第三、第二インターナショナルの対立、特殊的是は各国資本主義の情勢に相応する運動、此の相互關係の裡に進展して、あるを見るのである。

歸つて、之を我が無産階級の實際に照らすに、其の陣營は、今尚我國資本主義の特殊性に照して、分岐的個別的形態を持続し、之れが内部は、概して小企業に據る組織と特徴とに加之、各自各階級の段階と組合闘争の性質と異なり、稍カスルは、狭き組合利益に在り、その間に統一される條件を見出し難き現状にあるを否み得ない。而して我國の無産大衆は、その大部が支配階級の欺瞞と懐柔と、階級の下に曝され、ある、こゝに於て統一すべし我が組織労働者は無産大衆の前衛として支配階級の権威に直面すべく論議をせしめられざる。然るに此の前衛は国際的無産階級運動の觀念的に最も早く、未だ先進諸國に成せざる種となる指導精神を、持して相対立して、ある現状にある。思ふに斯る情勢は我が國資本主義は欧州大戦の時期と急速に発展し来りたる傾向に照応するものであつて、其の部に感度の資本主義的並に封建的殘存物を多量に抱藏して、あるがためである。斯くの如き現状は、やゝし、其の運動を、あやまらざる方向に導く、即ち一面に於ては資本主義階級の組織的産生及び懐柔と他面に於ては国際的暴響によつて、其の一は益に資本主義階級に対する、闘争的精神を失ひ、他は無産階級陣營の適宜なる認識を把握し得ず、徒らに國際的又は先進資本主義の運動方針にたづなるとし、我國無産階級陣營の情勢と無關係に階級闘争の尖鋭化を主張するに至る。

即ち其の結果、或る程度までは階級闘争の墮落と恍惚とに他ならない。